

地震お見舞い



平成30年7月

六月十八日 大阪北部地震の被害に遭われた方々には心からお見舞い申し上げます。皆様の安全を祈念申し上げます。

ニュースでは住宅被害が六七〇〇棟を越え、震源地に近い地域では今でも市民生活への影響が出ていると聞きます。地震の当日は、仏様・ご先祖様を心配し多くの方が御来山下さいましたこと、ご本尊様に報告致しました。

多くの方に心配をいただき大変感謝しております。皆様の周りで、今も大変な状況の方がいらっしやいましたら、また何かお手伝いを出ることがありましたら、遠慮なくご相談下さい。



両讚寺
恵心寺

発行 〒610-0343
京都府京田辺市
大住八河原九
宿谷真治
電話 0774-62-3137

私達は未曾有の東日本大震災をテレビなどで目の当たりにした経験があります。その為、被災者に対してはどのような言葉も慰めにならないことは百も承知であることと存じます。

地震や天災というものは、まず自分の思うようにはなりません。

それどころか、本来自分の心の有りようで上手く管理できるはずの人間関係といった問題ですら、思うようにならないのが人生です。

いわんや自分の身体や、大切な人の健康というものも、願いと裏腹に思うようにはなりません。

よくよく考えて見ると、人生というのは、思うようにならない

いこととの戦いかもしれません。ある本に次のような言葉がありました。

人生は苦難だらけ、苦難を当たり前と受け止めて、悠々と乗り越えていけるようになった時に、本当の意味で人生を楽しめる境涯になったと言える。

苦難は地震の時や、病氣の時に特別にやってくるものではなく、常に自分の身に訪れるものかもしれません。

常に訪れるからこそ、対処法を身に付けて、その都度 確実に苦難を乗り越えることが出来るようになって初めて、人生において一つの境地に立つことが出来るのかもしれない。

その境地に立った人から見れば、苦難とは自分を苦しめるものではなく、乗り越えることが出来るものなのでしょう。

そのようにして苦しみを取

り除いた人生は、楽しめる人生になるのではないでしょうか。

楽しむという言葉に別の漢字で「愉しむ」という言葉があります。

お茶を愉しむ、花を愉しむ、書を愉しむ、掃除を愉しむ、畑を愉しむ、

蔵の宝より身の宝、身の宝より心の宝、と言われるように、何が起こっても、いくつになっても、自分の心の成長を愉しみ続けることの出来る人生を、共々に過ごすことが出来ればと存じます。

地震被災者への回向

・大阪北部地震

物故者之諸精霊位

追善菩提

(おおさかほくぶじしんぶっこしゃのしよしょうれいいついぜんぼだい)

・十念

(お念仏を十遍唱える)